

金沢アートプラットホーム 2008

—自分たちの生きる場所を自分たちでつくるために—

アートが街に元気に出ていくとき、

未来に向かって新たな可能性が見えてくるはず。

硬直化した仕組みや紋切り型のイメージが

私たちの生活を縛っているのであれば、

それを変容させていくアートの力を信じたい。

場所、人の可能性は、まだまだ引き出されていません。

「金沢アートプラットホーム 2008」は、

金沢の街に希望を生み出す展覧会です。



「金沢アートプラットフォーム 2008」は、金沢 21 世紀美術館が金沢の街を舞台に行う、プロジェクト型の展覧会です。公園や商店街、街中の空き家などを活動の場に、約 20 名のアーティストが形式にとらわれない作品を展開。多くの人が参加するワークショップが行われ、また街中でたくさんの展覧会が開かれます。アートを通して人が出会い、新しい出来事が起きる。そして人々に対話が生まれ、社会の様々な部分に架け橋ができ、街がより豊かな場所へと変わっていく。この秋、街の人々と織りなすアートが、金沢にあふれます。

- 01 展覧会情報
- 02 展覧会について
- 03 展覧会の特徴
- 04 キュレーション意図
- 05 プロジェクト一覧
- 06 アーティストプロフィール
- 07 スケジュール
- 08 会場地図
- 09 関連企画



展覧会情報

【展覧会名称】金沢アートプラットフォーム 2008

自分たちの生きる場所を自分たちでつくるために

【英文名称】「Kanazawa Art Platform 2008 To Create Our Own Place by Ourselves」

【会期】2008年10月4日(土)2008年12月7日(日) 休場日:月曜日 (ただし月曜日が祝日・休日の場合は翌日)

【開館時間】10時～17時 ※個々の会場によって異なります。

【料金】パスポート(地図付)

・当日／一般＝1,000円 大学生＝800円 小中高生＝400円 65歳以上＝800円

・前売り、団体／一般＝800円 大学生＝600円 小中高生＝300円

※無料でご覧になれる会場もございます。

【チケット取り扱い】金沢21世紀美術館ミュージアムショップ、チケットぴあ(予定)

※前売りチケット発売予定7月1日

【会場】金沢21世紀美術館をはじめ、金沢中心市街地約10カ所に作品を展示します。(以下、予定地)
玉川こども図書館 / 玉川公園 / 広坂商店街 / 兼六大通り商店街 / タテマチ商店街 / 扇町周辺空き町家 / 金沢市内小学校 / 金沢市中央市民体育館 / 金沢市内の大学 / 金沢21世紀美術館(長期インスタレーションルーム、無料ゾーン、外構広場など) / 金沢市民芸術村

【主催】金沢21世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団]

【後援】金沢市、金沢市教育委員会、タイ王国大使館、財団法人石川芸術文化協会(以上申請中)

【協力】石川県、金沢市商店街連盟(以上申請中)

【助成】オランダ王国総領事館(申請中)

【参加アーティスト】青木千絵(日本) / アトリエ・ワン(日本) / 牛嶋均(日本) / 小沢剛(日本) / カミン・ラーチャイプラサート(タイ) / KOSUGE 1-16(日本) / 塩田千春(日本) / 高橋匡太(日本) / 高橋治希(日本) / トーチカ(日本) / 友政麻理子(日本) / 中村政人(日本) / 八谷和彦(日本) / 藤枝守(日本) / フランク・ブラジガンド(フランス / オランダ) / 丸山純子(日本) / 宮田人司(日本) / 八幡亜樹(日本) / 他

この資料の記載内容は2008年5月現在のものです。変更する場合がありますのでご了承ください。

＜本資料に関するお問い合わせ＞

金沢21世紀美術館

広報担当:落合・黒田・岡田

TEL:076-220-2811 FAX:076-220-2806

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1

<http://www.kanazawa21.jp> E-mail:press@kanazawa21.jp

※展覧会の作品写真、美術館の写真などは上記へお問い合わせください。



アート
プラットフォーム
2008

KANAZAWA
ART
PLATFORM

02

展覧会について

「金沢アートプラットフォーム 2008」は、2008 年秋、金沢 21 世紀美術館が金沢の街を舞台に行う、プロジェクト型の展覧会です。

近年、多くのアーティストが美術館という中立的なアートを空間を飛び出して、社会と直接的に関わる活動を多様に展開しています。どのような活動を通して社会に影響を与えることができるのか、どうすれば見えない未来に向かって新しい提案を行うことができるか—アーティストは、このような問いを抱え、生きた社会を実践の場として捉えながら、アートの可能性を探っています。

このような姿勢を持ったアーティストには、いくつかの特徴がみられます。表現者として先立つよりも、場や基盤をつくるコーディネーターのような立場に身を置き、仕組みや状況の建設へ向かうこと。また、協働的であり、関わり合う人たちとの了解、合意、ときには逆の反応である反発などを含めた相互関係を重視すること。展覧会などの形式や、美術、建築、デザインといったジャンルに捕われず、横断的に表現の可能性を捉えていること。そして、非日常であることよりも日常や場所との親和性、継続性に重点を置いていること—そこでは、協働性と現場主義が優先され、さまざまな人たちと関わりあうことが求められます。

「金沢アートプラットフォーム 2008」は、このように、社会と自覚的に関係を持ちながら活動するアーティストたちと継続的にプロジェクトを行うことによって、金沢の街に暮らす人々とアーティストが協同する場を生み出してゆこうというものです。「アートプラットフォーム」とは、文字通り、駅のプラットフォームをイメージし、そこでは、アートを介して人々が出会ったり、情報が行き交うことで新しい出来事の誘発を可能にします。それによって、会社、家庭、学校、地域、といった社会のさまざまな枠組みのあいだに新たなバイパスをつくること、人々のあいだに対話を生み出し、都市がいきいきとした活動の場となることを目指しているのです。「金沢アートプラットフォーム」—それは、モノローグ（独白）を超えて、社会との関係をより豊かにするダイアログ（対話）に向かっていく場をつくる試みなのです。

「金沢アートプラットフォーム 2008」は、それぞれ異なった視点を持つ 4 名のキュレーターによって構成されています。キュレーターは、金沢という場所を生かしながら新たな対話の構造を作る重要な作家たちを選出しています。

また、金沢で展覧会や街づくりなどの活動をしている他の組織や団体、個人が「金沢アートプラットフォーム 2008」と同時期に展覧会や催しを行う場合に、もし一緒に名を連ねてもいいと思ってもらえるならば「金沢アートプラットフォーム 2008」の連携企画として告知をしていきたいと思っています。

「金沢アートプラットフォーム 2008」は、プロジェクト型の展覧会を 3 年ごとに継続してゆくことを目指しています。その 1 回目当たる今回は、「自分たちの生きる場所を自分たちでつくるために」というテーマを掲げました。これには、金沢の街に暮らすわたしたちが、アーティストと一緒に社会と関わり、活動していく「プラットフォーム」を、共に作り上げていこうという思いが込められています。一人ひとりが身近な場所で、アーティストと一緒に活動することで、自らの可能性を信じ豊かな生活を作り上げてゆくことが、「金沢アートプラットフォーム 2008」の目標です。

金沢 21 世紀美術館 館長 秋元雄史

展覧会の特徴

①金沢を舞台にした展覧会＝場と関わる

石川県金沢市は、北陸地方、石川県のほぼ中央に位置する人口約 47 万人の中規模都市です。この街は加賀百万石、前田藩の藩政期以来、文化政策重視の街づくりをすすめて、学術、文化、産業都市として発展してきました。今年 3 月には、文化芸術の力により市民参加で地域活性化に取り組み成果を上げている市として文化庁の「文化芸術創造都市」に選ばれるなど、現在でもその町の文化やそこに伝わる伝統を大切に、かつ「金沢市民芸術村」や、「金沢 21 世紀美術館」を開設し、新たな街の魅力創出に努めています。そこには、江戸時代以来続く、人と人のつながり、地域同士のつながり、また人と地域とのつながりなどが、生きています。

今回の「金沢アートプラットフォーム 2008」は、アーティストが直接、場を読み解き、場に働きかける展覧会です。彼らがこの金沢という街を舞台に、街を巻き込み、これまでとは異なる視点で金沢を見せてくれます。そして彼らの活動と作品が、金沢の街づくり、商店街の活性化などと結びついていきます。

< 例 > 中村政人 × 兼六大通り商店街（商店街の活性化） / アトリエ・ワン × 町家（金沢ならではの古い町家を保存・活用） / フランク・ブラジガンド（古びた建物を、色で再生、商店街の活性化）

②金沢の街に暮らす人々を巻き込んだ展覧会＝協働

「金沢アートプラットフォーム 2008」は、多くの人々が関わる企画です。例えばアーティストが金沢に滞在し作品を制作したり、ワークショップを展開します。また展覧会で使用する建物の改修も、その地区の人々と協働で行います。

アーティストは小中学校の児童からデイケアセンターのお年寄りたちまで様々な人とワークショップを行います。また地域の住民、商店街の店主、作品制作や建物改修のボランティア、金沢美術工芸大学や金沢工業大学といった学校の学生など、多くの人が関わります。逆に、こうした多くの市民の参加とその力がなければ成立しない企画といえるでしょう。金沢に住む多くの人々が関わり、彼らがアーティストとともに主役となる企画です。

< 例 > KOSUGE1-16 × 小学校 × 地域商店街 × スポーツ NPO（小学校での巨大紙相撲ワークショップ、地域商店街とスポーツ NPO の協力を得た大会） / 丸山純子 × 小学校 × 病院 × 介護施設（レジ袋で花づくりワークショップ）

③構造自体がプラットフォームの展覧会＝フラットに広がる構造

例えば、展覧会が組織される場合、多くはある一人のキュレーターが一人の視点で作家を選択し、展覧会全体を推進します。「金沢アートプラットフォーム 2008」は、そのように一人の企画力で成立する展覧会ではありません。今回、この企画には金沢 21 世紀美術館の 4 人のキュレーターが参加しています。つまりこの展覧会は、複数のキュレーター、アーティストの視点が、「プラットフォーム」上に共存する構造なのです。

また関連の「K-Plat-extension」は、同時期に金沢市内で行われる展覧会やアートのイベントと連携し、共同して金沢の街を包み込んでいく企画です。4 人のキュレーターが展覧会のコンセプトにそって、それぞれの立場と思考から推進する企画に「K-Plat-extension」という形で市内の数多くのアートイベントが加わり、複数のプロジェクトの集合体として「金沢アートプラットフォーム」は成立します。

④対話を生み出す展覧会＝バイパスができる

上記①、②、③で出来た場合には、市民やアーティストなど多くの人が参加し様々な出会いが生まれます。美術館、学校、商店街、街づくり NPO、スポーツ NPO、病院、デイケアセンター、家庭、観光ボランティア、行政…。多くの出会いから協働が生み出され、それらを通じ普段接点のないグループ同士の間に対話が生まれます。

駅のプラットフォームのようにアートを介して人々が出会ったり、情報が行き交うことで新しい出来事の誘発が可能になります。それによって、社会のさまざまな枠組みのあいだに新たなバイパスを作り、人々のあいだに“対話”を生み出し、都市がいきいきとした活動の場となることを目指しているのです。つまり「金沢アートプラットフォーム」は、社会との関係をより豊かにするダイアログ（対話）に向かっていく場をつくる試みなのです。

キュレーション意図

「金沢アートプラットフォーム 2008」は、展覧会の構造が「プラットフォーム型」となっています。すなわち、ある一人のキュレーターが、一人の視点で作家を選択し、展覧会全体を企画推進するのではなく、複数のキュレーターの視点が、ある「プラットフォーム」上に共存する構造です。本展は、金沢 21 世紀美術館の 4 人のキュレーターが、展覧会のコンセプトに沿って、それぞれの立場から企画推進する複数のプロジェクトの集合体なのです。

■ 秋元雄史（ディレクション／キュレーション）

アーティスト：中村政人／カミン・ラーチャイプラサート／小沢剛／宮田人司

美術とはだれのものでしょうか？ 美術における公共性とは何かをみんなで考えたい。また、今の時代の社会モデルはどのようなものが最適でしょうか？ いまだに死に絶えることのないユートピアという夢が引きずっているものは？ 美術という実践を通じて話を進めていきたい。そういう思いから選んだのが 4 名のアーティストです。彼らは、それぞれ独自の方法によって、新しい社会の枠組みを模索しているように思います。

■ 鷺田めろろ（キュレーション）

アーティスト：友政麻理子／KOSUGE 1-16／フランク・ブラジガンド／アトリエ・ワン／丸山純子／八幡亜樹

街は人です。様々な人々が各プロジェクトに主役となって参加し、アートを通じて互いに会い、繋がります。例えば、二人組の「KOSUGE 1-16」は、小学生と巨大な紙相撲を作り、スポーツ NPO（特定非営利活動法人）と紙相撲大会を開きます。丸山純子は、小学校や病院、老人介護施設などでレジ袋を使って造花を作り、タテマチ商店街を彩ります。アトリエ・ワンは、まちづくり NPO や金沢工業大学の学生と、金沢の伝統的な建物の空き「町家」を再生します。アートの力で垣根を越えた人の繋がりは、街を元気にします。

■ 黒澤浩美（キュレーション）

アーティスト：牛嶋均／塩田千春／トーチカ／高橋匡太／八谷和彦

わたしたちが個人として対応しているプラットフォームは、もしかしたらあらかじめ決まってしまうのかもしれませんが。しかし、異なるプラットフォームに立つ作家や作品と出会ったり、直接関わることで、未だ存在しない新たなプラットフォームを創造することができるのではないのでしょうか。そこには、異なる立場や考えが二項対立ではなく、いかに共生していくかのヒントが含まれていると信じ、今回は、人々と時間を共有し、考えを交換しながら生きるアーティストをご紹介します。未来をとらえる機会としたいのです。

■ 高橋律子（キュレーション）

アーティスト：藤枝守／青木千絵／高橋治希

青木千絵と高橋治希の二人は金沢で活動するアーティストです。この地で制作を続けている作家だからこそ、「場」や「人」とのかかわりが意識の深いところにじみでてくるような表現に繋がり、作品に絡みついてくる空気感が多くを伝えてくれます。藤枝守もまた「音」を通してそうした空気感を伝える作家です。具体的な出来事としての「かかわり」としてより、じっと見つめる、耳を澄ますことによって街、そして人の連なりがじんわりと伝わってくることを期待しています。



アート
プラットフォーム
2008
KANAZAWA
ART
PLATFORM

05

プロジェクト一覧（五十音順）

	作家名	場 所（予定）	内 容	関わる人々、団体（予定）
1	青木千絵	金沢市内の寺院	漆を素材としたインスタレーション	
2	アトリエ・ワン	扇町周辺の空き町家	町家を再生し、コミュニティスペースとして活用	金沢工業大学／金澤町家研究会／ CAAK／金沢職人大学校／都市政策局歴史建造物整備課／都市整備局市街地再生課町家再生推進室
3	牛嶋均	玉川こども図書館／玉川公園	みんなの基地を作る	玉川こども図書館／石川県
4	小沢剛	金沢市内	「金沢の七不思議小沢版」を観光ボランティア「まいどさん」と廻る	産業界観光交流課／まいどさん
5	カミン・ラーチャイブラサート	金沢市内の空きビル	それぞれの人の思い入れのあるものを集めた「31 世紀こころの美術館」	金沢市商店街連盟
6	KOSUGE1-16	市立中央体育館 市内各小学校 金沢 21 世紀美術館長期 インスタレーションルーム キッズスタジオ	巨大サッカーゲーム「アスレチック・クラブ 21」展示／「ドンドコ！巨大紙相撲」ワークショップを市内小学校、キッズスタジオで実施、大会を市立中央体育館で実施	かなざわ総合スポーツクラブ／クラブレッツ／各小学校下町会・商店街／金沢市商店街連盟／校下婦人会連絡協議会／金沢市町会連合会／金沢市こども会連合会／教育委員会学校指導課・生涯学習課／市内各小学校／金沢市公民館連合会／産業界商業振興課／市立中央体育館
7	塩田千春	金沢市内の大学	ベルリンの窓枠の作品展示	
8	高橋匡太	金沢市内	光を使ったコミュニケーション・アート	金沢美術工芸大学
9	高橋治希	金沢市内空き民家	アスファルトを使った花のインスタレーション	辰村道路株式会社
10	トーチカ	金沢 21 世紀美術館 無料ゾーン	ペンライトを使ったアニメーション制作・展示	金沢美術工芸大学
11	友政麻理子	金沢市内空き民家	「カミフブキオンセン」「カミフブキの家」「父と食事」の制作と展示	
12	中村政人	兼六大通り商店街	秋田や沖縄などと結ぶレジデンス、アートセンターづくりと作品のレンタルシステム	賢坂辻サポーターズ／株式会社山越／金沢大学／兼六大通り振興会／金沢美術工芸大学
13	八谷和彦	金沢市民芸術村広場・アート工房	個人で飛行装置を作る「オープンスカイ」のテストフライトと展示	金沢市民芸術村アート工房アートアンツ
14	藤枝守	金沢 21 世紀美術館 無料ゾーン	金沢 21 世紀美術館広場の木の音を聞くサウンド・インスタレーション	金沢大学教育学部附属小中学校同窓会
15	フランク・ブラジグランド	鱗町北蔵の祠 玉川公園内トイレ	古びた建物をペイントし、再生させるワークショップ	石川県／鱗町地蔵保存会／オランダ王国総領事館
16	丸山純子	堅町商店街／市内各小中学校／病院／老人介護施設／ 金沢 21 世紀美術館キッズスタジオ	レジ袋を使って花を作り、タテマチ商店街を飾る	金沢市商店街連盟／堅町商店街振興組合／教育委員会学校指導課／市内各小中学校／消防局／病院／ケアネット千尋小立野／産業界商業振興課
17	宮田人司	ウェブサイト上	ネット上の新しいバーチャル・コミュニティ	
18	八幡亜樹	広坂商店街空きビル	映像インスタレーション展示	金沢市商店街連盟／広坂商店街振興会

アーティストプロフィール（五十音順）

1) 青木千絵 Chie Aoki（日本）

1981年、岐阜県生まれ。現在、金沢美術工芸大学大学院博士課程在籍中。金沢で漆に出会い、その素材感を生かした作品制作を行っている。塊と身体の一部が融合したフォルムは、女性性とともに身体の不自由さ、内面の不確かさを感じさせる。素材と自己の内面と、どちらも等しく真摯に向き合うことで作品を作り出していく態度は金沢の作家に共通するが、その徹底した態度は突出している。

〈プロジェクト概要〉

金沢の暮らしのなかに自然に溶け込みながら、信仰という強い思いが隅々まで浸透している寺を「場」として選んだ。その「場」から感じられるとらえどころのない思いの巨大なエネルギーを大きな塊として表現していく。寺を「場」として、漆という素材が、よりいっそうその塊のなかに込められた人の心の内を引き出してくれるに違いない。



『BODY06-3 沈黙』

2) アトリエ・ワン Atelier Bow-Wow（日本）

塚本由晴、貝島桃代の二人組の建築家ユニットとして、1992年より活動。建築の設計やワークショップを行う。塚本は、1965年、神奈川県生まれ。東京工業大学大学院博士課程修了。同大学大学院准教授。貝島は、1969年、東京都生まれ。東京工業大学大学院博士課程修了。筑波大学講師。都市の中で活動する個人から都市を考え、都市的な視点から個人による建築を発想する。ヴェネツィア・ビエンナーレ、サンパウロ・ビエンナーレなど10以上の美術の国際展に参加。昨年4月から9月まで、金沢21世紀美術館で、「いきいきプロジェクトin金沢」を実施。金沢工業大学の学生など約30人のスタッフと金沢の町家を調査。

〈プロジェクト概要〉

金沢市内に、空家として残る町家（江戸時代の町人の住宅兼店舗）を改修し、再生、活用するプロジェクト。町家の活用を通じて、個人やNPOなどの団体が都市を支える仕組みの構築を目指す。昨年プロジェクト中に実施した町家の調査に基づき、現在、プロジェクトの舞台となる町家を検討中。地元若手建築家、金沢工業大学の学生、町家保存再生を目指すNPOなどと協働しながら、8月、改修を行う。10月からの展覧会の会期中には、アーティストや若手建築家の共同スタジオ、レジデンス、兼、レクチャーや展示などを行う交流の場として活用し、展覧会終了後も継続的に自主運営する。



町家調査

3) 牛嶋均 Hitoshi Ushijima (日本)

1963 年 福岡生まれ、久留米在住。20 代で舞踏家・田中泯に、出会い身体パフォーマンスを始める。世界を旅した後に帰国し、家業である遊具製作業を手伝いながら、遊具の作品を制作・発表。パーツの組み合わせによって全体の形状を変えていく経過も楽しめる作品は、形が子ども達の遊び方を限定しない、しなやかさと自由さを包含している。また、遊具を基地と見立てた基地作りのワークショップも多数行い、子どもに限らず、大人にとっても「秘密の場所」の基地が必要であることを伝えている。



Nrp project ver. 1+2(2002 年)
©Hitoshi Ushijima
於：三菱地所アルティウム

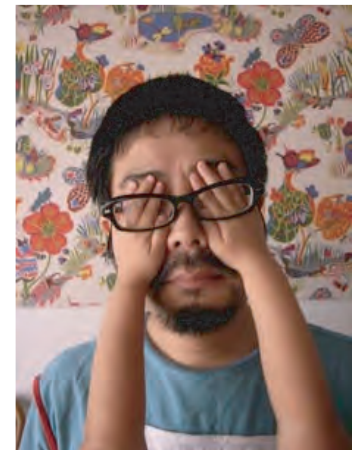
〈プロジェクト概要〉

玉川公園の芝生広場を拠点に、街中の隙間に基地を作る。それは建物と建物の間の隙間か、細い路地の果ての小さな空き地か。基地をつないで、僕らの「ひみつのまち」を作るのもおもしろい。あとは、自分たちのラジオステーションを作ろうか。

(キュレーターとのミーティング・メモより)

4) 小沢剛 Tsuyoshi Ozawa (日本)

東京芸術大学在学中から、風景の中に自作の地蔵を建立する「ジゾーイング(地蔵建立)」を開始。1993 年から牛乳箱を超小型移動式ギャラリーにした「なすび画廊」や「相談芸術」、1999 年には香川に日本美術史への皮肉ともいえる「醤油画記念館」を開館、また 2001 年には女性が野菜でできた武器をもつポートレート写真のシリーズ「ベジタブル・ウェポン」、2007 年には豊島に不法投棄された産業廃棄物を材料にした仏像を制作し、88 体を直島に設置した「直島 88 か所」など、多数ある。ユーモアを交えた作品スタイルは軽妙で、環境や平和などのメッセージが、アートの自由な発想で作品化されている。活動は日本国内にとどまらずアジア、アフリカなど海外にまで広がっている。



〈プロジェクト概要〉

金沢の街をリサーチし、小沢的な視点から金沢の新名所をつくっていく「金沢七不思議 小沢版」を行う。その新名所は、金沢の観光ボランティアである「まいどさん」によって案内を受けることができる仕掛けになっている。兼六園、茶屋街、金沢 21 世紀美術館など、メジャーな観光名所の多い金沢だからこそ、そこから抜け落ちる金沢など、新たな魅力スポットを再発見し形成するという作品。街に重層性を与え、定型化したイメージをゲリラ的な手法によって変容させていく。

5) カミン・ラーチャイプラサート Kamin Lertchaiprasert (タイ)

カミン・ラーチャイプラサートは、タイ北部の都市チェンマイを活動拠点として、参加型、プロセス重視型の制作活動をしている。リクリット・ティラバーニャと共同で始めた「The Land」プロジェクトは、本人は美術活動とは定義していないが、自立したコミュニティのための解放された場の創出を狙いとする長期プロジェクトで、ライフワークとも呼べるもっとも重要な活動である。仏教思想を基に実験的な思索やライフスタイルの探求が行われ、有機農業、建築、美術展、レクチャーなどのほか、瞑想法やヨガ教室が開かれている。



©Kamin Lertchaiprasert

〈プロジェクト概要〉

31 世紀こころの美術館

この展覧会では、金沢において「美術館をつくる」という試みを通じて、新しい美術のあり方を提案する。実際に行うことは、それぞれの宝だと思えるものを持ち寄り展示し、それらが展示される場を美術館として開放する。作品の管理から解説、運営まで市民の手にゆだねられる。ここでも「自立したコミュニティのための解放された場の創出」という考え方が背後にある。また、売買によって流通する美術作品や作品の私的な所有の問題など、社会における美術のあり方についても「所有権の無力化」「美術を超える活動」といった視点から緩やかに反対を唱えていく。

6) KOSUGE 1-16 (日本)

車田智志乃、土谷享の二人組のアーティストユニットとして、2001 年より活動を開始。土谷は 1977 年、埼玉県生まれ、多摩美術大学絵画科油画専攻卒業。車田は、1977 年、福島県生まれ。アートが身近な場所で生活を豊かにしてゆく存在になることを目指す。スポーツなど、日常のありふれた環境や現象、人のつながりに着目し、観客に参加を促し、参加者同士、あるいは作品と参加者の間に関係を生み出す仕掛けをつくる。

〈プロジェクト概要〉

体験型作品「アスレチック・クラブ 21」プロジェクト「ドンドコ！巨大紙相撲～金沢場所～」
「アスレチック・クラブ 21」は、サッカーボードゲームを巨大化した体験型立体作品。9 月より、金沢 21 世紀美術館無料ゾーンの長期インスタレーションルームに設置。地元のスポーツ NPO「かなざわ総合スポーツクラブ」と協働し、作品を使った大会も実施する。「ドンドコ！巨大紙相撲」は、巨大な紙相撲を作り、大会を行うプロジェクト。9 月より、約 5 校の小学校と金沢 21 世紀美術館キッズスタジオで、力士を制作するワークショップを行い、家族や地域の商店街、スポーツ NPO と協働して、11 月 16 日（日）、金沢市立中央体育館で大会を実施、運営する。



巨大紙相撲

7) 塩田千春 Chiharu Shiota (日本)

1972 年大阪生まれ、ベルリン在住。京都精華大学在学中に国立キャンベラ美術大学に交換留学生として留学。卒業後、ドイツのブラウンシュバイク美術大学でマリナ・アブラモヴィッチに、またベルリン芸術大学ではレベッカ・ホーンに師事。1994 年に発表したパフォーマンス作品「Becoming Painting」にはじまる、自らの身体のリアリティとアイデンティティへの不安が、抑制の効いたゆらぎのない表現に結晶している点で、世界的に高い評価を受けている。

〈プロジェクト概要〉

旧東ベルリンの取り壊された建物の窓枠を集め、その窓だけで大きな構築物をつくる。展示場所は、人々の往来があるものの、個人個人にとっては決して慣れ親しんだ暖かい環境ではなく、自立した個人が社会と接点を持つことで成り立っている大学のような場所を選ぶ予定だ。手の届くほどの近い過去の出来事を伝えてくれる窓枠に、現在を生きる人々は自分たちの姿をどのように重ね合わせるのだろうか。



©Chiharu Shiota



「沈黙から 塩田千春」展
神奈川県民ホールギャラリー
PH: 怡土鉄夫

8) 高橋匡太 Kyota Takahashi (日本)

1970 年京都生まれ、京都在住。京都市立芸術大学大学院修了。京都・二条城や青山・国連大学など、屋内外の様々な建築物で光を使ったインスタレーションを行う。1995 年に麒麟コンテンポラリーアワード最優秀作品賞受賞。2002 年には ART-EX 大阪府芸術家交流事業選抜芸術家として、フランスに滞在。2005 年には福井県あわら市にて一般公募した夢を LED 付きの種にのせて、気球から星のようにばらまくプロジェクトを行った。最新作は十和田現代美術館の開館にともない、コミッションワークを発表している。

〈プロジェクト概要〉

高橋匡太が自分ひとりで完成させる「もの」を設置するというのではなく、誰かと、おそらくは複数の人々との協同によって導かれる「こと」を作品にする予定だ。その場に居合わせた人々が、それぞれの記憶に残るような印象的なシーンを創り出し、それはより開かれたものであるように願っている。



夢のたねプロジェクト 2004.11.- 2005.10
あわら市、福井県
PH: Ichikawa Yasushi

9) 高橋治希 Haruki Takahashi (日本)

1971年、金沢市生まれ、金沢在住。東京芸術大学大学院後期博士課程修了。博士号取得。大学在学中から風景と人のかかわりをテーマに制作を続け、1999 年より東京と大阪、ロンドンからフランスなど、都市において自分が実際に見た風景の映像でつないでいく「Continuous Landscape」プロジェクトを手がける。2002 年より制作場所を金沢に移し、九谷焼の花が渦状に広がりながら、その花のなかに記憶の風景が広がる「風景の感じ方」シリーズを展開している。



〈プロジェクト概要〉

街のなかで人は風景とどのようにかかわっているのかということにこだわり、新たな風景を作り出そうとする試み。街に残された金沢の古びた町屋の内と外が微妙に入り組んだ空間にアスファルトが敷きつめられ、そこにはアスファルトによって形作られた自然の風景が広がっていく。外の風景と中の風景が渾然一体となりながら、リアルな街の風景を生み出していく。



風景の感じ方

10) トーチカ TOCHKA (日本)

トーチカは、モンノカツエとナガタケシのふたりを中心にしたクリエイティブ・ユニット。京都造形芸術大学在学中の 1998 年に活動をスタートし、実験的な手法を用いて、アニメーションやコミックなどを制作。2005 年にトーチカとなり、多数の映像作品を手がけている。2006 年オタワ国際アニメーション映画祭特別賞受賞後、同年作品「PIKAPIKA」で文化庁メディア芸術祭特別賞受賞、2008 年クレルモンフェラン国際短編映画祭 Labo 部門グランプリ受賞。



〈プロジェクト概要〉

ひがし茶屋街や兼六園など、これぞ金沢！という風景の中に、トーチカとのワークショップに参加した人々によって描かれた光のラクガキが現れる。はじめて金沢を訪れた人や街に住む人を誘うように流れるアニメーションで、金沢の街歩きを楽しんでもらいたい。

11) 友政麻理子 Mariko Tomomasa (日本)

1981 年、埼玉県生まれ。東京芸術大学大学院博士課程在籍中。群馬県みなかみ町などでプロジェクトを実施。家族をテーマに作品制作やワークショップを行う。「家」や「家族」とは何かを問い直す。また近年は、富士信仰をテーマにした作品も展開し、「家族」や「信仰」といった社会的な物語の構造に迫る。



〈プロジェクト概要〉

「カミフブキオンセン」

複数の家族が紙吹雪を切って作りながら、架空の「カミフブキオンセン」にまつわる物語を作り出すプロジェクト。8 月に、金沢の約 20 の家族が紙吹雪と物語を作る。10 月からの展覧会会期中、美術館の近くの民家に、作られた紙吹雪を使って「オンセン」のインスタレーションを制作。湯船のような設えの中に紙吹雪を満たし、訪れた観客は、その「湯船」に浸かりながら、それぞれの家族の作った物語をビデオモニターで聞くことができる。「家」や「家族」という視点から、金沢の街を捉えなおす作品。



カミフブキオンセン

12) 中村政人 Masato Nakamura (日本)

1997 年から非営利芸術活動「アーティスト イニシアティブ・コマンド N」を主宰、グローバルとローカルを結びつけるアーティスト交流プログラム「POWWOW」を 36 回開催。また国際ビデオアート展「秋葉原 TV」など、市民、学生、商店組合、民間企業、大使館、自治体等を結びつける新たな社会参加型アートプロジェクトを約 30 企画、制作、実現。アートを社会活動と位置付け、早くからアートによるコミュニティづくりを実践しているアートプロデューサー的な存在。中村の社会と美術に関わる制度論は、インタビュー集「レンタル・ギャラリー」(1994 年)、「美術と教育 1997」、「美術と教育 1999」という一連の出版活動に表れている。



ZERODATE

〈プロジェクト概要〉

「Z プロジェクト」

10 月から 12 月、兼六大通り商店街に期間限定のアートセンターを作るプロジェクト。美術館や商業ギャラリーではないところで、美術の活動を継続的に生み出すための仕組みを実験する。空きビルの改修、作品展示、作品のレンタルシステム、カフェ、ショップ、レジデンスプログラムなどを行う。また、秋田、沖縄、氷見、水戸など、地方都市を結ぶネットワークを構築する。地元商店街主、地元で活動するアーティスト、金沢大学や金沢美術工芸大学の学生、ボランティアと一緒にプロジェクトを推進、展覧会終了後も活動を継続する。

13) 八谷和彦 Kazuhiko Hachiya (日本)

1966 年、佐賀市生まれ、東京在住。九州芸術工科大学（現九州大学芸術工学部）画像設計学科卒業。「視聴覚交換マシン」や「見ることは信じること」などの特殊コミュニケーション・ツールとしての作品や、ジェット・エンジン付きスケート・ボード「エアボード」や、個人的に飛行装置をつくってみる「オープンスカイ」など、ある種の機能をもった作品を発表している。ピンクの熊がメールを運ぶコンピューター・ソフト「ポストペット」の開発者でもあり、「ペットワークス」の代表でもある。



PH: 松隆浩之

〈プロジェクト概要〉

個人的に飛行装置を作ってみる「オープンスカイ」プロジェクトを、金沢市民芸術村で行う。10 月上旬の天候の良い一日に、八谷が乗るゴムひも付きの一翼機を参加者が牽引して飛行させるテストフライトと、「オープンスカイ」プロジェクトの経過がわかる初期段階からのモデルや記録資料を展示。フライトシミュレーターなど、手軽に飛行を体験できる作品や、近く実現するエンジンを搭載した同機を携えてのプロジェクトの行方についても発表する。



「5 本目」 PH: 米倉裕貴

14) 藤枝守 Mamoru Fujieda (日本)

1955 年、広島生まれ。カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽部博士課程修了。博士号取得。九州大学大学院芸術工学研究院教授。作曲を湯浅譲二、モートン・フェルドマンらに師事。ハリー・パーチ、ルー・ハリソンに影響されながら、純正調による音律のあらたな可能性を模索。特に「聴くこと」に基づく表現を行っており、そのインスタレーション的展開は美術館での発表も多い。



〈プロジェクト概要〉

サウンド・インスタレーション「樹の声～木々たちがよびかけてくる」

金沢 21 世紀美術館が建築される前、そこにあった金沢大学附属小中学校で植樹された樹木が、今も美術館のまわりに植えられている。藤枝守はそれらの樹木の一本一本から生体電位変化のデータを取り出し、そのデータを変換した「音」を金沢 21 世紀美術館外壁の曲面ガラスをスピーカーとして聴かせる。金沢 21 世紀美術館のガラス越しに樹木たちの「声」に聴き入ることによって、樹木の育んだ長い時間の流れや、その時間のなかで変容していった土地と人々のつながりに向き合うプロジェクト。



「樹の声」
ドローイング

15) フランク・ブラジガンド Franck Bragigand (フランス／オランダ)

1971年、フランス生まれ。ブサンソン美術学校卒業。オランダ国立ライクスアカデミーに2年間滞在。現在、オランダを拠点に活動。自らを「リアリスティック・ペインター」と定義し、現実の社会に存在するものをペイントすることによって再生し、その魅力や特異性を引き出す。オランダのデザインをリードするドローク・デザインのオフィス全体もペイントするなどデザインや建築とのコラボレーションも多い。

〈プロジェクト概要〉

9月に金沢に滞在し、古くなった建物や、公園の設備、学校の遊具などを、ワークショップの形式で、学校の生徒や参加者たちと一緒にペイントするワークショップを実施する。普段使用している古くなったものを、使用している自分たち自身が塗ることによって再生する。5月に金沢の街を調査し、プロジェクトを行う場所と建物を決定する。



16) 丸山純子 Junko Maruyama (日本)

1976年、山梨県生まれ。ニューヨーク市立大学ハンターカレッジ美術学科卒。「越後妻有アートトリエンナーレ 2006」などの国際展や、オーストラリアでのグループ展「Field of Ideas」などに参加。身近で、見過ごしそうな素材の持つ違和感を感じ取り、手を加え、収集することによって、意味を変化させる。親密な共同作業を通じてコミュニケーションを生みだし、インスタレーションによって場を変える作品を展開。

〈プロジェクト概要〉

レジ袋を使って花を作るワークショップを行い、商店街を飾るプロジェクト。身近な素材を使って、丁寧に手を動かして花を作るという行為そのものが精神の安定をもたらす、ワークショップを通してコミュニケーションを生む。丸山は、7月に金沢に滞在し、レジ袋を使って花を作るワークショップを、小学校や病院、老人介護施設などで計8回実施する。そこで作った花と、新潟や横浜、オーストラリアのバースなどで、過去にワークショップを通じて作られた花、計6800本を、10月からの展覧会期間中、金沢21世紀美術館より徒歩5分の堅町商店街全長450メートルいっばいに展開する。インスタレーションが商店街の場を変える。



PH:Yuko Suzuki



金沢堅町商店街のドローイング

17) 宮田人司 Hitoshi Miyata (日本)

クリエイティブ・ディレクター。タイ・バンコク生まれ。ミュージシャンとして活動中、マルチメディア作品制作にも携わる。後にネットワークエンタテインメントをコンセプトに起業し、ISP事業及びコンテンツ企画制作を手掛け、ネットゲームや着メロを始めとする数々のコンテンツを世に出す。グラフィックデザインやフォトグラフィック、CGアニメーション監督などもこなすクリエイター。

〈プロジェクト概要〉

「街の記憶・人の記憶」

宮田は、ホームページを作品展開の場所とする。そこで、時系列レイヤーに分かれた金沢の街のデジタル白地図を用意する。参加者はそれぞれの記憶を写真や言葉でマッピングしていく。この作品は参加者の手で少しずつ変化していく。それぞれの「思い出」がマップ上にあふれていく過程で他者との関わりを作り出していくというもの。この作品は完成することはない。



© 2008 hitoshi miyata

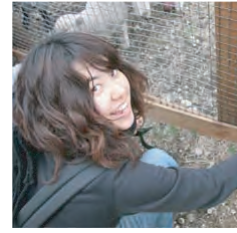
18) 八幡亜樹 Aki Yahata (日本)

1985 年、東京都生まれ。現在、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程在籍中の若手映像作家。ドキュメンタリーのスタイルをとった映像作品を制作。河原に住むピエロを題材にした作品など、現実と虚構を超えた日常と言う時間軸、またそこにあるもの／人の存在について考えている。

〈プロジェクト概要〉

ドキュメント「ミチコ教会」

「ミチコ教会」は、山に建つ簡素な小屋で、それを「教会」として営む老女を捉えた約30分の映像作品。小屋を建て、共に生活してきた夫に先立たれ、山を下りるかどうか葛藤しながら生きる様を描き出す。作者はフィクションかドキュメンタリーかは明らかにしていないが、社会や宗教の周縁で生きる人の純粹さを捉えている。10月からの展覧会会期中、金沢 21 世紀美術館に近い、広坂商店街の空きビルで、写真とともにドキュメントとして展示。社会の周縁への視線を喚起し、公共空間とは何かを問う作品。



「ミチコ教会」インスタレーション



アート
プラットフォーム
2008
KANAZAWA
ART
PLATFORM

07

スケジュール

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全体の動き						← 金沢アートプラットフォーム 10/4~12/7 →		
青木千絵			← 作品制作・設置 →			● 展示	→	
アトリエ・ワン				← 町家再生 →				
牛嶋均				● ワークショップ		● 展示	→	
小沢剛						● 作品設置	→ ツアー	
カミン・ラーチャイプラサート			● 説明会	← 作品募集 →		● 展示	→	
KOSUGE 1-16					← 巨大紙相撲ワークショップ →		● 11/15,16紙相撲大会	
塩田千春					← 作品制作 →	● 展示	→	
高橋匡太								
高橋治希		← 作品制作・設置 →				● 展示	→	
トーチカ				● ワークショップ		● 展示	→	
友政麻理子				← 滞在制作 →		● 展示		
中村政人	● 5/17 プレイベント		● アンデパンダン展告知		● 会場改装	● アンデパンダン展開始		
八谷和彦						● テストフライト 展示	→	
藤枝守					● ワークショップ	● 展示	→	
フランク・ブラジガンド					● ワークショップ			
丸山純子			← ワークショップ →			● 設置 ● 展示	→	
宮田人司						← WEB上での展開 →		
八幡亜樹								

月	7~9月	9月末	10月~12月
出来事	ワークショップ 作家滞在制作 建物改修	作品設置作業	展覧会 ワークショップ
人	作家 ワークショップ参加者 地域住民、商店主 作品制作ボランティア		作家 ワークショップ参加者 地域住民、商店主 運営ボランティア 観客

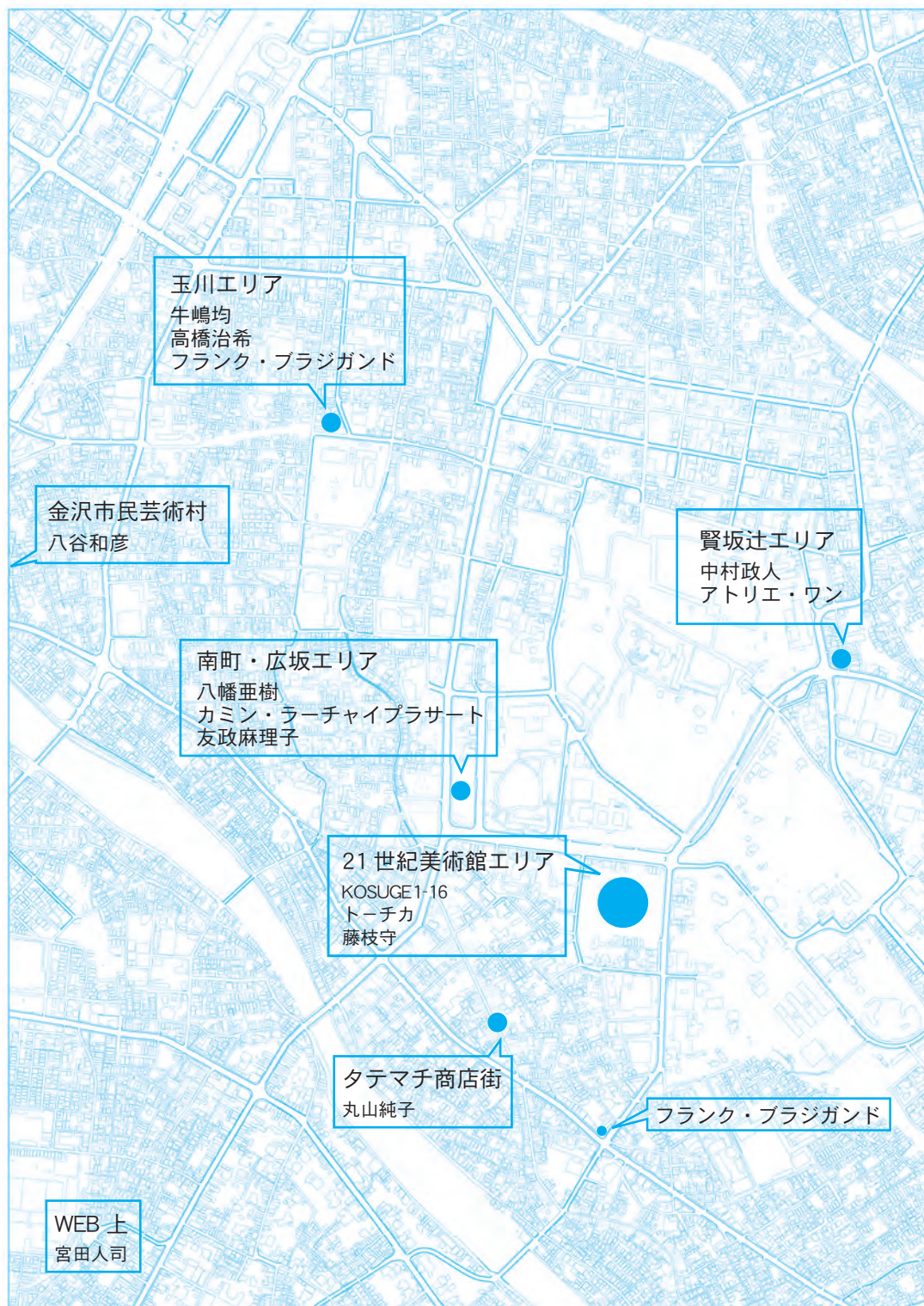


アート
プラットフォーム
2008

KANAZAWA
ART
PLATFORM

08

会場地図





関連企画

K-Plat-extension

「金沢アートプラットフォーム」は、10月から12月までの間、金沢で行われる展覧会やワークショップなど、様々なアートイベントと連携します。「K-Plat-extension」は、その窓口です。「K-Plat-extension」に参加した企画と「金沢アートプラットフォーム」が一緒になって金沢の街をアートで包み、そこに新たな対話が生まれます。約20人のアーティストが作り出すプロジェクトに、別の主体が作り出す展覧会やイベントなどが加わり、それらのプロジェクトの集合体として「金沢アートプラットフォーム」は完成されるのです。

「K-Plat-extension」参加者募集要項

1. 概要

「金沢アートプラットフォーム 2008」と同時期に開催される展覧会等で趣旨に賛同していただける催し物を「K-Plat-extension」と総称し、「金沢アートプラットフォーム 2008」の連携企画として位置づけます。「金沢アートプラットフォーム」を通して、金沢の街を一緒に盛り上げていただける企画を募集します。

2. 対象

以下の条件を満たすもの

- ・「金沢アートプラットフォーム 2008」の趣旨に賛同していただけること
- ・金沢市内で開催されるアートの展覧会および催しであること
- ・10月4日～12月7日の会期中に開催されること
- ・「金沢アートプラットフォーム 2008」の一部として広報等に協力できること
- ・有料・無料は問わないが営利目的でないこと
- ・終了後、事業報告書を提出いただけること

3. 実施案

- ・「金沢アートプラットフォーム 2008」のガイドブックに情報を掲載します。
- ・金沢21世紀美術館のデザインギャラリーで開催される「金沢アートプラットフォーム 2008 インフォメーション・ブース」において、「K-Plat-extension」としてチラシ等を配置し、来場者への情報提供を積極的に行います。
- ・参加者の会場内に「金沢アートプラットフォーム 2008」のチラシ、ポスター等を配置していただきます。
- ・「金沢アートプラットフォーム 2008」の内容を把握してもらい、来場者への情報提供に協力していただきます。
- ・参加者には「K-Plat-extension」のロゴを提供、それぞれの広報に活用していただきます。

4. 募集方法

申込書（後日、募集要項とともに美術館ホームページ上で公開、また美術館でも配付）と展覧会の内容のわかる資料を提出していただき、条件等の確認の上、参加者を決定します。最終決定後、主催者に通知いたします。

5. 募集期間

5月1日～6月30日

それ以降も随時募集は行いますが、「金沢アートプラットフォーム 2008」の広報物への掲載は保障されません。